No.2026-017

2026/10/ 4

「ちょいとカビ検査」報告書

依頼日：2026 年　9 月 10 日

依頼者：[redacted]

住　　所：[redacted]

検査したい理由：　カビの発生状況を調べたい

検査された場所：検体 No.1：衣装ケース服処理前, 検体 No.2：掛け布団処理前, 検体 No.3：別部屋の棚処理前，検体 No.4：別部屋布キャビネット処理前，検体 No.5：寝室のタンス木処理前，No.6：ビデオデッキ処理前

検査法：検体を撹拌後，0.2mL を DG-18 平板培地に塗抹し，25℃／7 日間培養した。培養後の平板培地に発生した色・形の異なる colony を計数し，プレパラート標本を作製して，光学顕微鏡観察を行って「同定検査」を行った。

【検査結果】

分離真菌／分離場所	No.1 衣装ケース	No.2 掛け布団	No.3 別部屋の棚
＜コウジカビ属＞白色 *Aspergillus* section *Restricti*	－	－	6,800
＜クロカビ属＞ *Cladosporium* spp.	－	－	50
担子菌類 Basidiomycota	－	－	－
コウボ菌類 Yeast	－	－	－
合計数（CFU/100cm²）	0	0	6,850

【検査結果】

分離真菌／分離場所	No.4 キャビネット	No.5 寝室タンス	No.6 ビデオデッキ
＜コウジカビ属＞白色 *Aspergillus* section *Restricti*	－	－	50
＜クロカビ属＞ *Cladosporium* spp.	50	－	－
担子菌類 Basidiomycota	－	－	50

コウボ菌類 Yeast	５０	―	―
合計数（CFU/100cm²）	１００	0	１００

＊sp.はその属の１種の意味，spp.はその仲間に複数種が含まれるという意味.

＊CFU＝Colony Forming Unit（平板培地に発生した coloy 数から算出した数値）

【所見】今回検査された 6 か所（6 検体）の内 3 検体から真菌（カビ・酵母菌）が分離されました。***Aspergillus*** section ***Restricti*** は，耐乾性のコウジカビの仲間で，書籍や水彩画などに褐色斑点（foxing）を発生させるだけでなく，アレルゲンとなる種が多く含まれています。***Cladosporium*** **sp.**は，一般に風呂場のタイル目地などに発生して知られている「クロカビ」で，アレルゲンとなります。**担子菌**と**コウボ菌**は，湿気が多く，カビが発生しやすい環境により多く発生します。近年，多くのカビがアレルゲンとなっています。今回の結果から，安全かつ適切な「カビ対策」を実施することが望まれます。

湿気の多い建物では「カビ臭い」と感じられることがありますが，これは MVOC（Microbial Volatile Organic Compounds）による臭いが原因である可能性があります。対策については，添付資料をご参照ください。

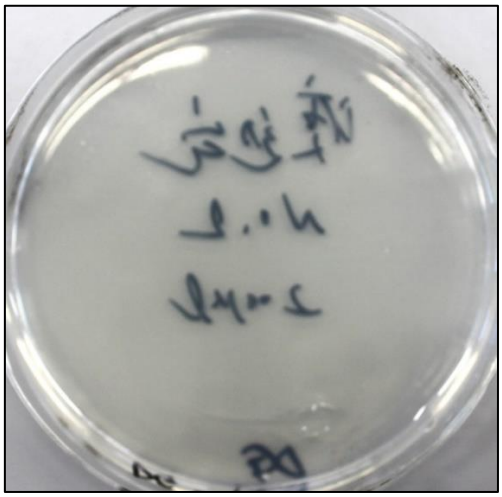
【検体・培養後の平板培地・分離菌の光学顕微鏡像】



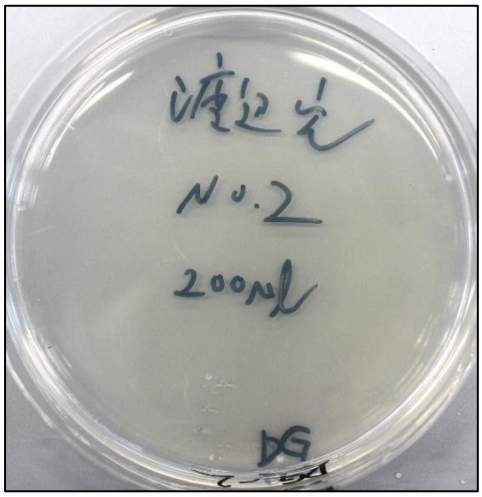
検査検体（No.1~3）



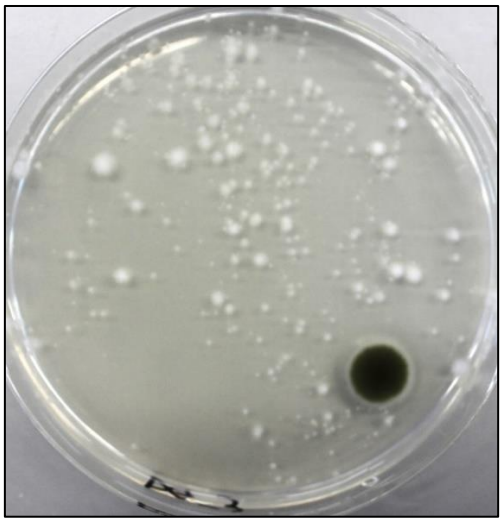
検査検体（No.4~6）



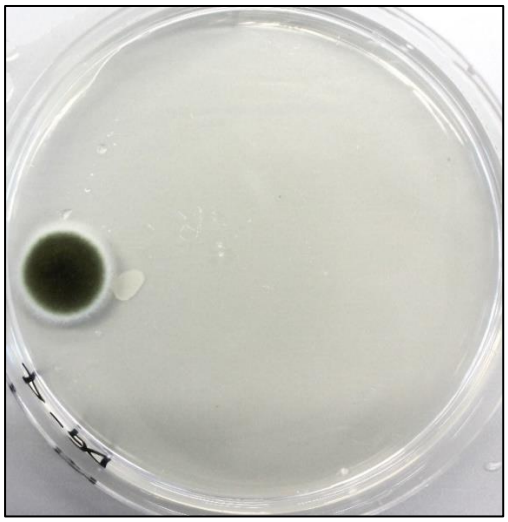
No.1：衣装ケース服処理前（25℃・7 日培養）



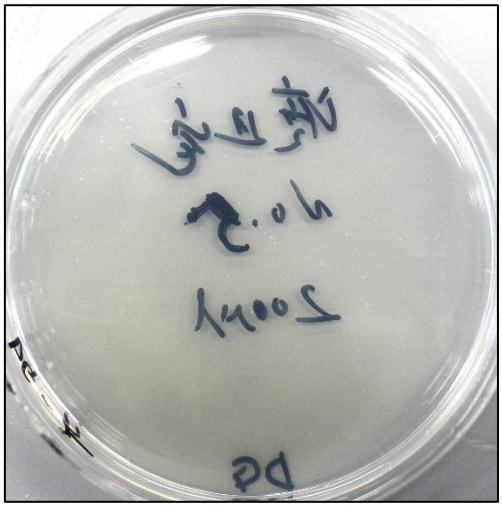
No.2：掛け布団処理前（25℃・7 日培養）



No.3：別部屋の棚処理前（25℃・7 日培養）



No.4：布キャビネット処理前（25℃・7 日培養）



No.5：寝室タンス木処理前（25℃・7 日培養）



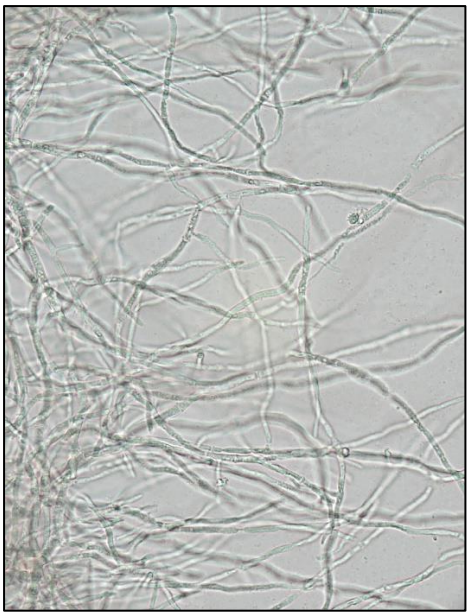
No.6：ビデオデッキ処理前（25℃・7 日培養）



Aspergillus section Restricti（白色／中央緑色）：×400



Cladosporium sp.：×400



担子菌の一種（白色）：×400

2026 年 10 月 4 日

NPO 法人生物アレルゲン研究センター

理事長・博士（農学）　川 上 裕 司

以上